

中央大学学員会 第46号 49年白門会会報

発行日 2023(令和5)年5月20日
発行人 山崎厚太
編集人 大竹力三
発行所 中央大学学員会49年白門会
印刷所 祐東光美術印刷

東京都港区南麻布3-11-41 ロイヤルシーズン南麻布501

49年白門会のホームページ ➔ <http://www.gakuinkai.com/hakumon49/>

49年のホームページから「会員の部屋」に入る際のユーザー名は49nen、パスワードはhakumonです。

49年白門会のメールアドレス ➔ hakumon49@gakuinkai.com

会員の皆様の登録・変更をお願いします。PC、携帯でも可能です。

CONTENTS

- 1ページ ★古希を過ぎて思うこと 石川晶雄
- 2ページ ★友へのメッセージ 荒木康裕 ★楽苦我喜 小泉純子
- 3ページ ★チョコちゃんのうちあけ話 その7 葛西聖司
- 4・5ページ ★「落語」の日々 丸山秀平 ★再開と再会 照木信久
★素晴らしい共同体 増田勝美
★見て見て!! 私の作品 阿部繁
- 6ページ ★2023年総会・懇親会のお知らせ ★会費納入のお願い
★会費振込み料金について ★原稿募集 ★広告募集 ★編集後記

49年白門会

(題字・葛西聖司)

49年白門会の活動もコロナ禍のため制約を受け、会報の発行やメールのやり取り以外の集団行動や歓談など、対面での行事が長らく中断されてきましたが、ここへ来て政府方針でマスク着用の制限緩和などが示され、やっとわが49年白門会の活動制限緩和も視野に入ってきました。今年の総会は開催予定と聞きまことにうれしい限りです。この対面活動制約の間中も会報を継続発行し続けられた広報部員の皆様には感謝です。



われら49会の全員が古希を過ぎていきますので、自分の健康寿命に関心は大いにあると思いますが、厚生省発表では男性72・68才、女性75・29才です。全国平均ですから我々全員に当てはまるわけではなく、古希を元気に経過して心身ともに健康維持に心がけていれば当然健康寿命は平

均値より永くなるのでしょうか、これから永遠に続くわけではありませぬ。行動に制約を受ける日がいずれ来るということですが、自分の、見たい・聞きたい・やりたい・やり残した事を行動に体感的制限を受ける前に実現していくことは、これから先極めて重要になってくると思います。

私の入会のきっかけ

さて私が49年白門会に入会したのは2001年です。この年は私の妻(50年法学部卒)がホームカミングデーのメイン招待でしたが私も多摩のキャンパスは一度も見たことがなかったので妻と一緒にホームカミングデーに行ったら、会場の一角に49会の幟旗が見えたので立ち寄りましたら勧誘されてその場で49年白門会に入会しました。その時に学員

会の抽選会で妻にマウンテンバイクが当たったのも印象的です。まさに私の入会祝のようでした。その後私は49会の行事に連続して2・3回参加したところ山崎会長に役員になるよう言われて幹事になり会運営のお手伝いをするようになりました。その後事務局次長を経て事業部長になり色々なイベントを企画しましたが、なんといつても49年白門会の設立10周年記念行事に葛西アナウン

私が学生の頃は中大落語研究会の顧問で九代目桂文治師匠が「皆さんは噺家にはならないで社会人としてお呼びしての懇親会に企画参加できたことは大きな喜びでした。15周年記念行事の時には中大落語研究会の後輩で真打になったばかりの桂やまと君をゲストに呼べたのも感謝しています。」

中大落語研究会

古希を過ぎて思うこと

49年白門会会計監事 石川晶雄

友へのメッセージ

小人閑居不為不善 —近況—

荒木康裕(法) 東京都大田区

基本的に暇である。それ故暇と付き合うために、リタイアして十年近く毎日やるのが余り変わっていない。元来読書好きなので、まず本を読む。どこかで、歳を取ってボケないためには頭を使いなさい、この言を聞いたことがあるので、それを実践している。それもミステリー小説ではあまり頭を使うことにはならないと思い、洋書を専らとしている。これには二つの効用がある。

一つ目は読むのに時間がかかることである。辞書を引き引き多少錆びついた頭脳を働かせなければならぬので、日本語の本に較べて圧倒的に時間がかかる。したがって時間が余ることがない。むしろ足りないほどである。ただ一ページ訳すのに2〜3時間かかったりした時には、何を讀んでいるのか自分でもよくわからなくなる時があるのが玉に瑕である。二つ目は費用対効果が大きいことである。

公立図書館にはほとんど洋書がないので、借りるとすると中大の図書館になるのだが、借りることはしな

い。なぜなら返却期日までには確実に読めないからである。それで仕方なく買つことになる。昔は丸善や紀伊国屋といった洋書取扱店に注文して、在庫がなければ2〜3ヶ月待つて海外から取り寄せてもらったものだが、今はなんとも便利になったもので、アマゾンに注文すれば一週間前後で届く。ただし、古書でオリジナル本でないコピー製本版は注意する必要がある。乱丁・落丁がてんこ盛りである。私も乱丁でクレームを出してアメリカから新しく取り寄せてもらったことがあるが、それがまたまた乱丁だらけであったことがある。アメリカの労働者をなめてはいけない。まあ、それでも和書に較べたら購入冊数が少ないので、年間購入額はたいして大きくはならない。結果リタイア後の懐具合はよすついで。



以上が私の趣味とも言えない程度の日常の時間消費の一端であるが、ここに大きな問題が一つ残されている。妻である。妻には洋書を読む趣味はない。少ないとはいえ毎年何冊か購入しているので、これまででそれなりの冊数になっている。私に割り当てられた本棚のスペースは限界を超えつつある。妻は妻の費用対効果を考える。私が死ぬまでにすべての本を読み終わってほしい、と言うが無理である。私の寿命と未読の本の冊数を考えると間違いなく、私の寿命のほうが先に尽きてしまうだろう。妻は私の死後に訳のわからない洋書を処分するのがいやなのである。最近はやりの終活とやらで、私が元氣なうちになんとかすればよいのだが、元氣なうちは読みたいので処分する気にならず、寿命が尽きそうなきには処分する気力も能力も残っていない。このシレンマに呻吟するこのごろである。ちなみに中大図書館に寄贈することも考えたが、さすがに中大図書館である。私が持っている本で図書館に所蔵がない本は一冊もなかった。

まあ、コロナのご時世に不善を為す暇もお金もないというのを寿ぐことにしよう。

らくくがき 楽苦我喜

小泉純子(文)

埼玉県川越市

WBCその他諸々

2週間にわたって熱戦の続いたWBCが終わった。大会が始まる前は始り関心がなかった私であったが、珍しく夫が大会初日から真剣に見入っている姿を見て私もいつしか侍ジャパンの試合と彼らの見事な活躍ぶりに忽ち彼らの虜になってしまった。決勝でアメリカを破り、七戦全勝で14年ぶりにWBCの3回目の優勝を果たした。やはり日本の優勝の立役者は大会MVPを獲得した大谷選手であろう。71才の私ですら惚れ惚れするような非の打ち所がない人に見えてしまう。もし私が彼と同世代の女性だったら、黄色い声をあげながら追っかけてもしていたらどうか…(笑)。何はともあれ、侍ジャパンの優勝おめでとございます。我々に勇氣と喜劇と感動を与えてくれて有難うございます。

ところで話は変わりますが、今年の我が家は新年早々大変でした。兎に角、夫は大のスポーツ好きでスポーツが生き甲斐と言っても過言ではないでしょう。昨年の12月に肩に違和感を感じ整形外科を受診した処、MRI検査の結果は左肩腱板断裂と診断が下り、1月4日入院5日手術でした。入院は8日間でしたが、退院後のリハビリに時間がかかり完治に約半年間を要するので未だに通院リハビリと自宅リハビリの生活を続けています。

5年半前に右肩腱板断裂の手術をし、約半年間のリハビリの末に完治し、再びテニスクラブに復帰しテニスやランニングを楽しんでいたのですが、今回は左肩腱板断裂となり、再び痛みとリハビリとの闘いとなり、妻としては内心テニスを止めた方がよいのに、思ったりしています…。1日も早い完治を願うばかりです。

ところで私にとって嬉しい事と言えば、今年3月末で自治会の班長としての1年の任期が終了した事です。コロナ禍にあってもほぼ通常通りの班長の活動があったので大変でした。解放された喜びに浸っております。

チコちゃんのうちあけ話

その7

葛西 聖司 (法)

白門を卒業して50年の節目の年。放送の世界から離れ12年になるが、初放送が1974年6月。鳥取放送局で天気予報。2分間の通称「ステブレ」ステーションブレイクという

もの。13時58分から14時までなど、時報直前の55秒まで。読む速度を調整しながら伝える。もちろんドキドキのデビューから50年だ。もちろんラジオ、それからニュースが読めるようになるのは半月後、さらに1か月後にはテレビデビュー。当時、鳥取県の人口は57万人くらい。未熟な初放送を耳にした方は5000人くらいだろうか。

そしてNHK人生最後の放送もラジオ。2011年3月。大震災直後復活した「ラジオ深夜便」そして生バンド入りの豪華な歌謡番組「きらめき歌謡ライブ」で締めくくった。

放送史の初めは大正14(1925)年。関東大震災で開始が遅れたが、ラジオがスタート。2025年3月に放送百年を迎える。

わたしの子供の頃は、ラジオが筆筒の上であって、毎朝ラジオドラマを聴きながら通園、通学、夜は父がナイターを聴いていた。こどもの音楽番組を幼稚園で収録したことが

あった。司会が中村メイコ。初めての放送出演もラジオだった。

NHKアナウンサーの基本はラジオニュース。字幕も映像もないなか、音声だけで情報をわかりやすく伝えるには、ただニュース原稿の文字を読めばいいわけではない。聴取者にわかるように伝える訓練、意味のつながりを考え、わかりにくい言葉をかみ砕いて読み、読み間違いをしたところから読み直せば理解されるかを想定し、下読みをしない「つっこみ原稿」をどう処理し、持ち時間内にまとめてゆめか、放送の基本がぎゅぎゅ詰まっている。

当時の原稿は、記者の手書き、そのデスクの赤字が、クレヨンのような太心のマーカー(糸がついて引いて巻紙をぐるりとほがし、を繰り返す筆記具「テルマ」といっていた)で乱暴に入り、読み手のわたしは青のマーカーで、読みやすいく印をつけて、放送記者の筆跡に慣れていない人には読めないシロモノだった。

「以上……正午のニュース葛西がお伝えしました」といって終わり、見上げた時計の赤い秒針が、12の数字にびたりとはまるほど、ほっとする。こんな日々の繰り返しが修業時代だった。

思い出の「疑問の館」

大阪、東京と本部署では多くのスタッフと全国放送(全中)といったラジオ特別番組やレギュラー番組に関わってきた。なかでも歌謡曲が多かったのは以前書いたが、わたしの思い出のレギュラーは「疑問の館」。左の写真はその出演者との記念写真。花束を持っているから最終回だろう。写っている方以外にも女優・水谷八重子、歌手・中島啓江、作家・井沢元彦、クラリネットの北村英治……素敵な文化人が目白押し、毎回4人が出てくれた。



右から森末慎二 木原美知子 私 ジェームス三木 藤田弓子 スタッフ

夜8時から9時半までの生放送。出演者に台本は見せない。サブタイトルは「おしゃべりクイズ」クイズといっても知識を試すのではなく、おしゃべりを楽しむ。答えを知らなくても恥をかかない。わたしは「音」と「色」を大切にしていた。たとえば、あるゲストが好きな本を持って来る。紙袋をガサゴソ、絵本が小説かなんだろうなど……ひとりひとりの推理が愉快で和やかなトークになる。

「ラジオ深夜便」では「真夜中のおやつコーナー」食べはしないのだが、地方の珍しい煎餅をマイクの前でパリンと割ってみたり、キャラメルを箱を振って何味のキャラメルか? 今日、甲府駅で買った「ブドウ味」と紹介したり。聴く人は醤油の香りブドウの味を連想するだろう。

色については「キリン」をテーマに語り始めたとき、あるゲストの服を偶然「キリン色」と私が云ったら別のゲストがスカーフは「シマウマだ」と発言で爆笑。ラジオは言葉ひとつで、さまざまな色や姿を連想できる。歌謡曲の番組でも衣裳を細かく説明した。同じ「赤のふわっとしたドレス」でも聴く人百人百色の「赤ドレス」があるだろうから。

ラジオは音声だけの世界だが、表現方法によってコーヒーの香り、炬燵の温かき、広大な風景、そして光と色彩、会話をするゲストの人間性……聴取者に無限の想像力を掻き立てることができるのである。

多摩総合法律事務所

弁護士 橋本幸一 弁護士 露木肇子
 弁護士 近藤わかな 弁護士 三井浩之

八王子市寺町30番地
 ☎042-626-9330

歌舞伎
日本の伝統芸能を味わおう

能狂言
読めば能楽堂に行きたくなくなる

日本の伝統芸能を学ぶ二冊!

「落語」の日々

丸山 秀平 (法) 東京都小平市

そのころ寄席で落語を聴きたいと思っただけ。

落語は、小学生の時に家にテレビ(勿論黒)が入って来たので、単発的な落語番組を観ることが出来た。

さらに中学に入ってから、NETテレビ(現、テレビ朝日)で「大正テレビ寄席」が始まったこともあり、毎週TVで寄席番組を楽しんでいた。

小学生の頃は家が千葉県市川市にあり、近所に「鈴木」という寄席(現、「上野」鈴木とは別)があったが、当時、既に寄席としては休業しており、ナマの寄席をみる事が出来たのは、家族に連れて行かれた上野の「鈴木」や人形町の「末廣」であった。

初めての寄席で記憶に残っている落語家は、古今亭今輔(五代目)と桂小文治であった。今輔師は、酒を飲んだような赤ら顔の大声で、時に早口になる話しぶりであった。一方、小文治師は、余り聴いたことがなかった上方弁で、おっとりとした仕草が印象的であった。二人とも、(その当時の私にとって)大変なおじいさんであった。

中学に入っても、TVの寄席番組と並んで、寄席通いは続いていた。そうして次第に引きつけられていったのは、やはり、文楽、圓生そ

して金馬といった師匠の噺であった。その頃、市川の古本屋で『落語全集』という本を見つけた。早速、買って帰り、家で読みふけるようになった。

高校2年になって、その本を貸した友人から、文化祭で落語をやらないかという話を持ち出された。一人が一つずつ噺を覚え、順番に口演して人数さえ揃えば何とかなるだろう。落語の口演を「文化」祭という場でやることを正当化するために「江戸(落語)文化研究会」の名前で参加申請をし、当日は会場の一部に相応の展示をした上で、実際は落語会を開催しようという算段となった。

そこで私自身も、口演の準備を始めた。ただ、噺を一つだけ覚えるのは他の演者と重なる危険性があったので、先の『全集』に載っていた噺のうち、「垂乳根」と「伊勢詣」という二席を覚えることにした。「垂乳根」は、前座噺として有名人であり、「伊勢詣」は、現在、立川談春師が得意とする『鮫講釈(兵庫船)』という噺で、一部講談が入る一席である。夏休みは噺の準備に明け暮れ、何とか秋の文化祭に間に合った(ここで写真参照のこと、見物に来た兄が写した筆者本人の姿である)。

コロナが少し落ち着いてきましたので、いろいろな活動が再開されつつあります。

49年白門会仲良し会のラインで皆様の元気なお姿が拝見でき素晴らしいと思います。旅行、水彩画、料理、音楽、落語など多彩な趣味に溢れていて、早い時期に49年白門会の皆様とお会いし酒を酌み交わりたいと切



3年ぶりに開いたリサイタル。前列の右端が照木さん。

に望んでいます。会員数124名の国分寺白門会も4月1日に武蔵国分寺公園でお花見を開催しました。私は中大理工学部卒というより、学友会文化連盟音楽研究会スウィング部(スウィング・クリスタル・オーケストラ)トランペット科出身です。3月25日(土)新橋ニッショウホール(旧ヤクルトホール)で3年ぶりに現役の第65回リサイタル(創部80年)が開催され盛況でした。昔とちがいの若い人は上手いですが、なぜだろう? 部員は箱根駅伝選手同様、毎日練習していますが、3年間リサイタルを経験せず卒業した部員は、さぞかし残念な気持ちだったと思います。私はスウィング・クリスタル同期及び先輩と設立した2つのビッグバンドで半世紀ジャズ活動をしていま



さて、ここまでお読みになった方は、既にお気付きの通り、落語ばかりで、学校や(大学の)受験勉強の方はどうなったかとお思いでしょうが、その結果は、落語と同様、「落し」がついて、中大に入り、現在(72歳の)立派なご隠居となっております。

再開と再会

照木 信久 (理工) 神奈川県横浜市

コロナが少し落ち着いてきましたので、いろいろな活動が再開されつつあります。

49年白門会仲良し会のラインで皆様の元気なお姿が拝見でき素晴らしいと思います。旅行、水彩画、料理、音楽、落語など多彩な趣味に溢れていて、早い時期に49年白門会の皆様とお会いし酒を酌み交わりたいと切

増澤 繁

マスクをしないで(笑)、お気軽に、散策を! 先ずは、ネットで、お試しを!

✉ kayoshige8@icloud.com

リアルでもネットでも ご来場を歓迎します

若葉ガーデン ☆千葉県柏市若葉町 8-13
別邸 ☆千葉県柏市常盤台 16-3-2

コロナに負けるな!! 宮崎から応援しています。

お気軽にご相談ください

黒木税理士事務所 所長

税理士 行政書士 黒木兼一郎

宮崎県北諸県郡三股町大字宮村1569-1
〒889-1912 (宮村郵便局南隣)
TEL (0986) 51-0313 FAX (0986) 51-0323

すが、やはりこのコロナ禍の3年間
はリサイクル、ふれあいコンサート
等全て中止しました。しかし、フ
ァンタイム・ビッグバンドはやっと4
月1日(土) 古賀政男音楽博物館・
けやきホールで第16回リサイクルを
再開しました。コンサートを待ち焦
がれていた、白間会他たくさんの方
様に来場頂き感謝一杯です。

前から巣ごもり状態は心身に良く
ないため、出来るだけ外出するよう
心掛けていました。月曜、金曜の夜
はバンドの練習、火曜は国分寺ロー

タリークラブの例会、他ボランティア
活動と様々な懇親会など。横浜か
ら東京まで電車の中で読む時代小説
は至福の時間です。また、月二回は
横浜のライブハウスにだけ、知り
合いプロのジャズマンに交わりラッ
パを吹いています。

私は鬼年ですが飛び跳ねるのでは
なく、亀のように、ゆったり、ゆっ
くり歩み、今を楽しんでおります。
『あちこちの骨がなるなり古稀こき
と』。皆様との再会を楽しみに待っ
ています。再見！

素晴らしい共同体

増田勝美(法) 東京都目黒区

ある日の晩、家に帰ると妻から、

T君が病院から電話をくれたとのこ
とであった。こちらからは病院へ繋
がらないとのこと、自宅の奥様に
電話をしたところ心筋梗塞で緊急入
院したとのこと。「入院時は重篤な
状態でしたが、少し良くなったので
電話をしたでしょう」との話で
あった。学部の違うT君とはヒョ
ンなことから大学で知り合った。その
後、リンゴや胡桃の産地のT君の家
に数日お邪魔をしたこともあった。

卒業後は結婚式に招かれ、その後10
年程して家族4人で東京へ出て来ら
れ、そこでお会いしたのが最後であ
る。大学での出会いが、年賀状と電
話だけの繋がりで大切な人間関係と

して今日に至っている。

今からふた昔以上も前になるが、
訳あって地方議会の選挙に出なけれ
ばならなくなった。公示日の4か月
前のことである。その時、事務所に
手伝いに来てくれた49会の仲間、そ
して遠方から声援してくれた49会の
仲間、目的を達することは出来な
かったが、その時の気持ちの繋が
りは今でも忘れられない。

「中央大学という素晴らしい共同
体」、これはゼミの指導教授の言葉
である。亡くなる少し前、先生から
手紙をいただいた。『より弱い人への手
助け一への信念を話され、私が20年
以上携わって来た犯罪を行った人に
寄り添う活動を評価していただい

新コーナー スタート!!

阿部 繁(文)

ボタニカル画



スケッチ会、横須賀線の田浦の
踏切でスケッチをしている時に、
ある女性から声をかけられまし
た。ボタニカル画の話したら、

た。その活動も今年で40年になる。
この保護観察活動も定年まで後数
年。有権的更生保護活動が終わった
後、貧しい生活や児童虐待などの中
で虞犯、触法、犯罪少年になりかね
ないボタニカルライン上にいる弱い子

「見て見て!! 私の作品」

趣味で創作した絵、彫刻、陶器、俳句、短歌
など、ちょっと自慢したい作品もあるかと思
います。そんな作品を紹介するコーナーです。

私の母が好きな花、ゼフィラサス
を描いてくれませんか? と頼ま
れました。お母さんの誕生日に贈
りたいとの事でした。インター
ネットで検索したら、明治時代に
日本に入ってきた花でした。何軒
かの花屋さんを聞いたら、扱って
ないので、インターネットで、花
を挿いて、私が10数年間師事した
ボタニカル室のY先生に見てもら
いました。そして、その花に合っ
たマットと額縁に入れて、女性に
プレゼントしました。お母さんは
大変お喜びになったそうです。

供たちに何か出来ることはないか。
向こう岸が見えて来たこの頃、向こ
う岸に渡る前の最後の仕事として何
が出来るか、今思案中である。

卒業して半世紀、色々なことを経
て古来稀な年齢を超えた。既に旅立
たれた、一緒に49会創立準備作業を
した中島章夫君、49会の事業部で事
業活動を練り、話し合った橋本哲郎
君や鈴木庸郎君との出会いも、素晴
らしい共同体を基に生まれた。
遠い昔、善き先輩、善き後輩、善
き同輩に恵まれた素晴らしい共同
体、中央大学で青き時代を過ごせた
幸運に感謝している。

ハードな事案からソフトな悩みの解決まで

～親愛 正義 智恵 勇気～

弁護士 山崎司平

銀座ライツ法律事務所 (第二東京弁護士会)
〒104-0061 中央区銀座3-10-9 共同ビル6階
TEL: 03-3546-0281 / FAX: 03-3546-0280
E-mail: yamazaki@ginza-rights.jp

最良のリーガルサービスを

学校法人中央大学元理事

弁護士 横溝高至

サンライズ法律事務所
東京都千代田区麹町2丁目2番36号
麹町鈴木ビル4階
電話: 03-3265-8277 FAX: 03-3265-8278
e-mail: yokomizo@sunrise-law.com

4年ぶりに 49会総会が開催されます

皆さん
来てね!!

開催日

2023年7月8日(土)

場所

喜山倶楽部
東京都千代田区一ツ橋 2-6-2
日本教育会館 9階
電話 03-3262-7661
最寄り駅 東京メトロ半蔵門線、地下鉄都営新宿線 神保町駅(A1出口) 徒歩3分

総会

11:30 ~ 12:00 (11:00より受付)

懇親会

12:00 ~ 14:00 (会費 8,000円)



総会会場の「日本教育会館」。3階には「一ツ橋ホール」があります。

49会の最後の総会は2019年7月でした。翌年の1月に令和になって最初の新年会が開かれ、その後3年と6か月会員の皆様とお会いすることができませんでした。コロナウイルス感染症でほとんどの49会の行事が中止になりましたが、ようやくコロナ禍から脱出する光が見え始めてきました。来年は中大卒業50周年を迎えます。その前には是非とも総会を開きたいと思っておりますので、多数のご参加をお待ちしております。夏の1日久しぶりに懇親を深めようではありませんか。

原稿募集

12月に発行する会報第47号の「会員からのエッセー」のテーマは「箱根駅伝に期待する」です。第000回の記念大会で優勝を目指す中央大学。箱根駅伝の思い出や応援を400字前後でお寄せ下さい。締め切りは10月31日です。49会のアドレス hakumon49@gakuinkai.com までお願いします。

広告募集

会報を作る費用の一部を皆様の広告料で賄いたいと思います。1段の半分のスペースを5千円で提供いたします。会社経営者、弁護士・弁理士・税理士などの事務所経営者、著作出版、個人的な宣伝などお待ちしております。原稿のデータがなければ広報部がお手伝いたします。お申込み、ご相談は事務局までご連絡ください。

会費振込み料金について

会報に同封されております会費納入の振込用紙ですが、昨年の4月から「払込手数料加入者負担」とあっても、現金での振込みはATMでも窓口でも100円の手数料がかかることになりました。誠に申し訳ありませんが振込み時に手数料100円がかかりますのでよろしくお願いたします。ただ、通帳から振込む場合は今まで通り無料になります。

●2023年度会費納入のお願い

49年白門会は皆様の会費によって運営されております。2023年度の会費を7月31日までに納めてくださるようお願いいたします。ある年度の納入を失念されていらっしゃる方も、今年度分から会費を納入していただけますと助かります。2023年度の会計年度は2023年4月1日～2024年3月31日です。年会費3,000円、入会金1,000円です。納入方法は下のいずれかをお選びください。

①郵便振替

振替口座番号 「00180-3-196081」
口座名称 「49年白門会」

②銀行振込 (振込手数料が必要です)

銀行名 三菱UFJ銀行 調布支店 普通預金「1979382」
口座名 49年白門会 渡邊秀和
(ヨンジウキウネンハクモンカイ ワタナベ ヒデカズ)

●49年白門会事務局

*住所変更、新規会員紹介の御連絡、会報への御意見などをお寄せください。
49年白門会事務局長 益田 耕二
〒106-0047 東京都港区南麻布3-11-41 ロイヤルシーズン南麻布501
Tel 090-4079-2778

※メールアドレスの登録・変更は hakumon49@gakuinkai.com にご連絡ください。

編集後記

●人生も残り少な々になると、何事も元気なうちこ、歩けるうちこ、動けるうちこ、ほげないうちこ、をモットーにすることにしました。ということは何をやるにもいまのうち。目が悪くなつて字が読めなくなる前に、文章の意味が理解できるうちに、広報部員を頑張ってみます。(井 美知子)

●この度、広報部の一員として49年白門会発足以来、20年以上続く会報制作に携わることになりました。宜しくお願いたします。3年以上続いたコロナ禍は終息まであと一歩のところまで来ました。7月に総会が開催される予定です。皆様との再会を楽しみにしています。(大谷洋一)

●過日、板橋区の赤塚城址を訪ねてみた。中学のとき、社会科研究部で来て以来。城跡の直下に広大な薄の原が広がるはかりだった徳丸ヶ原に、今では高島平団地が並び建つ。全てを甘酸っぱい記憶として懐かしむ年頃になったと感慨も深い。(宮川 保)

●4年振りに7月に総会が開かれることになりました。この間会員の皆様の情報を知るのはこの会報だけです。今号より広報部員は井美知子、大谷洋一、宮川保さんと私が担当することになりました。これからも年2回発行を継続いたしますので、宜しくお願いいたします。(大竹力三)